

昨年からお伝えしているように、今年の冬はエルニーニョ現象の影響で、暖冬となるとの予報が出されてきました。でも実際はどうでしょうか？12月はともかく1月に入ると強い北極気団の進出などあり寒い日が続き、感覚的には暖冬とは程遠い感じがする日もあったのではないのでしょうか？

でも、寒いなどと言って居るのは我々だけ？四季を持つ温帯域に住む以上、冬季は寒冷になるのは当然のこと。気象上の暖・冷は平年に比較しての気温の高低で発信されているだけです。また、我々以上に自然は正直です。散策の道筋でも、この冬は今まで霜や氷の張るような日もなかったこともあり、スイセンなど園芸種の花々は元気ですし、先報で報じたカタバミ類の他、路傍のノゲシやオニノゲシをはじめタビラコ、ホトケノザの花なども見かけられます。取り敢えず、公表されている気象庁の発表を基に附近のこれまでの3ヶ月間の気象を検証して見たいと思います。



1. 今期の11月～1月の近郊の気温経過

* 11月～1月の気温比較

(神戸)	11月	12月	1月	積算値
平年	14.2	8.8	6.2	891
2022	14.5	8.9	5.7	888
2023	15.8	7.9	6.6	923
2024	14.7	9.7	7.2	965

住居近くの神戸気象台の11月～1月の3か月間の平均気温、平年値と過去3年間の値とこの間の積算値(℃/Day)を比較しておきます。

左の表からわかるように、月間に均してみると、12月、1月とも平年や昨年と比べて暖かったことが分かります。また、気象台が発表

していた、「暖冬」という予報も当たっています。皆さまのお住まいの地域も同様であったのではないかと

11月～1月の積算温度比較

	神戸	大阪	京都	豊中	枚方
平年	891	876	747	769	750
2022	888	869	747	780	765
2023	923	902	780	786	776
2024	965	937	836	851	833

と思います。ご参考までにこの地域の11月～1月の間の積算温度を表示しておきます。

左の表で見て頂ければ、積算温度から11月以降1月まで、平年や昨年と比べて温暖であったことが分かるかと思います。なお、11

月の気温が高かったから？という疑問も出て来るかも知れませんが、上表の神戸の例で分かるように、積算温度への寄与は平年との差、0.5℃ですので、0.5×30、15℃・Day程度です。各地域とも、11月は平年より0.5～0.7℃高かったのは事実ですが、寄与は20℃・Day程度。これを考慮したとしても、平年や昨年と比べても高かったことには変わりありません。冒頭の“自然は正直”をうらづけた傍証になるかと思います。ただ、こと「サクラ」に関しては休眠打破が遅れるのではないかと懸

念が生じ、今年の開花に影響しないか監視が必要でしょう。今後の気象の見込みは？・・・次項で。

2. 向う3ヶ月の天気予報

1月23日に気象庁から、2月～4月の気象予報が出されていますので下記に転記しておきます。

近畿地方の3か月予報 2024年01月23日 14:00 発表

予想される向こう3か月の天候(2024年02月～04月)

平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

2月

近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。(降水量は太平洋側の確率表示・以下同じ)

気温	低い	20%	平年並み	30%	高い	50%
降水量	少ない	20%	平年並み	40%	多い	40%

3月

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

気温	低い	20%	平年並み	30%	高い	50%
降水量	少ない	20%	平年並み	40%	多い	40%

4月 近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう

気温	低い	20%	平年並み	40%	高い	40%
降水量	少ない	30%	平年並み	30%	多い	40%

3. ウメの開花情報

今年は、色々な方からウメの開花が早いのではないかとされます。「花だより-1」では、全国の開花状況の内、上位10位までの地域と開花日をお知らせし、さらにこの辺りの1月17日時点での白梅の開花状況は2分咲き程度1ヶ所、2軒のお宅の庭でチラホウ咲きとなっていることをお伝えしました。でも最近では散策時に白梅は勿論、紅梅の開花も良く見かけ、中には5、6分咲きになっているものも見られます。

気象庁のウメ（白梅）の開花情報では1月31日現在、沖縄から関東まで27地域での開花が発表されています。近畿地区では先報で奈良の開花をお知らせいたしましたが、この地域では神戸、和歌山の開花が報じられています。

神戸の開花日は1月19日、平年より18日早く、昨年より24日早い、和歌山の開花は1月30日で平年より13日、昨年より18日早いと発表されています。なお、大阪（昨年の開花2月22日）、京都（昨年の開花2月28日）、彦根（昨年2月10日）についてはまだ開花は報じられていません。

4. サクラの開花情報

*ヒカンザクラ（カンヒザクラ）

気象庁の発表する奄美・沖縄地区のサクラの開花日・満開日の標準種はヒカンザクラであることはご承知の通りである。今年も既に4地域の開花が公表されていますので下記に纏めておきます。

地域	開花日	平年比	昨年比
宮古島	1 月 5 日	12 日早い	10 日早い
沖縄（那覇）	1 月 13 日	3 日早い	6 日遅い
奄美（名瀬）	1 月 17 日	3 日早い	3 日早い
石垣島	1 月 22 日	4 日遅い	12 日早い

ひと昔前まではこの地域のヒカンザクラの開花は「休眠打破」の影響が大きく、北から南へ、山上から麓へと進むと言われて来ましたが、最近はそのような傾向はなく、バラバラである。なお、何れの地域も 1 月末現在満開の報は入っていません。過去、宮古島や石垣島などでは満開日が記録されない年もありましたが、今年はどうでしょうか。

なお、住居近では芦屋川沿いの公園に若木受光 3～4 m の若木 5 本が植えられておりここ数年観測してきていますが、1 月末現在冬芽が幾分膨らみ、先が緑色になって来ている程度で開花はまだ先と思われます。

*アタミザクラ

ジュウガツザクラやコブクザクラなど晩秋から花をつける 2 期咲きの桜を除き、年明けから最も早く咲くサクラは「アタミザクラ」と言われています。例年の開花時期は 1 月中旬～2 月中旬であり、早咲きとして有名な桜であるカワヅザクラ（河津桜）より 1 ヶ月ほど早く、沖縄のカンヒザクラ（寒緋桜）や、伊豆市土肥のトイザクラ（土肥桜）などと共に、日本において（年明け後の）最も早咲きの桜の一種とされています。

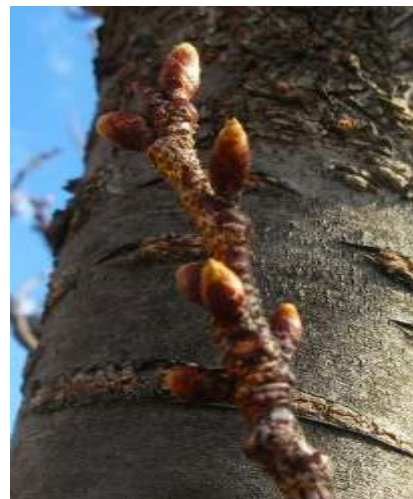
このサクラは 1871 年（明治 4 年）に、イタリア人によってレモン・ナツメヤシと共に持ち込まれたインド原産の品種とされてきたが、花粉の分析などによってカンヒザクラ（寒緋桜）とヤマザクラ（山桜）の雑種であると推定されている。熱海市の観光資源の一つとして門外不出状態でカワヅザクラのようにこの附近では見られません。（伊勢神宮、離宮など宮内庁には献納されている。）

このサクラに付いては熱海市の観光協会が市内数か所の開花状況を HP に掲載していますが、1 月 25 日(火)現在の開花状況では「ほぼ満開」となっているとのこと。開花は年初であるが、1 月 22 日の発表では最も植栽の多い糸川歩道について下記の様に発表しています。

・糸川遊歩道（全 58 本）2 分咲 10 本・3 分咲 11 本・5 分咲 8 本・見頃 29 本 →6.60 分咲

樹齢や剪定の有無などはわかりませんが、同一品種でもこの程度のバラつきはあるようですね。

1/22 糸川遊歩道 一気に見頃になりました！（熱海市観光協会の映像借用です。）



*カワズザクラの開花情報

静岡新聞・1月26日号に下記の記事が掲載されました。

「河津桜開花予想 昨年より早い見通し 南伊豆と河津町」 静岡県農林技術研究所伊豆農業研究センター（東伊豆町）は25日、賀茂地区の河津桜の開花予測を発表した。二分咲きは河津町が2月10日、南伊豆町は同9日。昨年比で河津町は6日、南伊豆町は5日早い。併せて見頃も昨年比で早くなる見込みという。河津町の河津川沿いでは見頃の七分咲きが14日（2023年は21日）、南伊豆町の青野川沿いは12日（同）と予測した。センターによると、気温が1月20日から2月16日まで平年より1.1度高い推移予想となるため、昨年より早期の開花が見込まれるとしている。両町では2月1日から河津桜まつり（河津町）と、みなみの桜と菜の花まつり（南伊豆町）が開幕する。河川沿いにいずれも800本ほどの桜並木が立ち並ぶ。（右の写真は昨年度の河津川沿いの並木の映像）



一方、河津町では22日の発表でここ数日の暖かさと雨で開花が進んでいるようで河津桜原木は開花が始まっている。このままいくと2月に入る前に1分咲きになる感じです。昨年は1月29日の段階でもつぼみでしたので今年がいかに早いかがわかります。また河津七滝地区でも早咲きの河津桜が咲きだし名木「上条の桜」とその周辺の河津桜は1分～2分咲きの場所まででてきました。その他 河津川沿いの河津桜など「河津桜まつり」主要地区はつぼみ～開花となっており河津川沿いでもつぼみも膨らんでいます。今年は2月前半からもお花見が楽しめそうです。

*カワズザクラはアタミザクラと違い、各地に苗木が出荷されているので、近郊でも開花の観察が可能です。私の日頃の散策路の範囲には2ヶ所ほどの植栽があり観測を続けて来ている。1月28日に芦屋市の東山公園の観察木を見にいったところ、既に花芽が右のように膨れて来ていることが分かった。昨年、この樹の開花日は2月25日でしたので、これよりは可成り早い開花になるのではないかと考えています。



5. 今年のソメイヨシノの開花日は？

この時期になると各気象会社から、今年の「ソメイヨシノ」の開花予想が出されてきます。今年は前述の通り全国的に暖冬気味に推移して来たことから、休眠打破の時期は遅れそうだが、2月、3月の気温も平年よりは高くなるとの気象庁の発表もあり、開花は平年並み～やや早いとの予想が出されて来ています。

*日本気象株式会社は、1月25日に2024年第2回桜の開花・満開予想を発表しました。

全国的に平年並みか平年より早い開花に：今シーズンは全国的に休眠打破の時期は平年より遅くなる見込みですが、休眠打破後の気温が平年より高めと予想され花芽の生長速度も速く、休眠打破の遅れを取り戻すため、全国的に平年並みか平年より早い開花となるでしょう。3月19日に高知で開花がスタート

し、続いて関東甲信・東海・九州地方の地点でも続々と開花し始める予想となっています。

・近畿地区では開花は、平年並みか平年より早い10月は平年並み、11月から12月にかけては平年より高めの気温でした。1月は平年よりかなり高め、2月から3月にかけては平年より高めの気温が予想されるため、開花は、平年並みか平年より早いと予想。

開花日は大阪3月25日、京都3月23日、和歌山3月23日と予想されています。

＊ウエザオニュース社 1月25日 第1回目の発表

今年の桜は、一部地域を除いて平年より4日～1週間くらい早いところが多くなりそうです。

今年の冬は、寒気が流れ込む回数が少なく長続きもしない、暖冬となっています。このため、休眠打破は弱めとみられますが、2020年ほどの大暖冬ではないため記録的な弱さではないところが多いとみられます。この先2月にかけても冬型が続かず気温が高めの日が多い見込みで、3月も平年よりは気温の高い日が多くなるとみられます。このため、桜の開花は平年より早いところが多く、1週間ほど早い地域もありそうです。そのあと4月も気温は高めとなる予想で、東北北部や北海道も平年より早くなりそうです。同社の近畿地区の開花予想日は・・・

大阪3月22日 京都3月23日 神戸3月25日 奈良3月26日 和歌山3月23日 彦根3月29日
としています。

＊日本気象協会：1月31日「2024年桜開花予想(第1回)」を発表しました。暖冬の傾向が強かったものの、寒波の影響も受け、3月にかけても気温が高いことから、桜の開花は全国的に平年より早い見込み。桜の開花トップは、福岡・高知で3月19日予想。東京は20日、大阪は22日に開花の予想。

6. 既にソメイヨシノの揚水が始まっている？

1月31日、日課の近所歩きの途上で近くの公園のソメイヨシノの“芽”の様子を見に寄った際に何気なく樹皮の様子を観ると下のように、樹皮表面に樹脂状の固形物が見られました。これは、昨年の「サクラだより」4号で解説した、「サクラの樹の揚水」に伴う栄養分（糖類？）の滲出固化物と思われました。このような固形物はYクラスでは見られませんが、樹皮の厚いA,Sクラスの樹で多く見られました。水溶性ですので雨が降ると流され、分からなくなりますが皆さまの周りでも観察して見て下さい。早くも開花・展葉の準備を進めているのですね。

今年は休眠打破が遅れそうなので、切り枝・促進テストは2月10日ごろから始めようかなと思っています。 以上

